

2007

春

特集

奈良 財団法人 奈良の鹿愛護会を訪ねて

福祉 社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団 救護施設 今池平和寮

医療 奈良県看護協会立 桜が丘訪問看護ステーション

連載 「今・食の安全は？」- (八) 杉浦 哲也

マーラーの交響曲第6番について(前) 山田 二良

鹿せんべいの味①筒井順慶の洞ヶ峠 中村 光行

「闇の楽園」=映画について=第25回 秋裂守 健太郎

もり・けんさんのおはなし② モンゴルのおはなし

うよじん

奈良から
の手紙

誌名について

乱声は雅楽用語で、主に舞人の登場するときに、
竜笛か高麗笛の独奏と、太鼓、鉦鼓の合奏で、拍
子にとられることなく、自由に演奏される曲の
ことです。時流に流されず、体制におもねること
なく、当誌を自由な良心の発言の場にしたいとい
う思いを込めて、誌名としました。この小さな誌
面が、奈良の地にさわやかな新風を吹かせること
を願っています。



社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 救護施設 今池平和寮

救護施設は、障害や経済的な問題により、日常生活を送ることが困難な人たちが健康に安心して生活するための保護施設。

今池平和寮は平成2年4月、大阪市西成区の釜ヶ崎と呼ばれる地域に開所した。現在は入所者だけでなく、寮を出て地域で自立生活をしている方も利用できるサービスがあり、さまざまな支援が行われている。

今池平和寮の織田隆之さん、高市里美さんに日々の活動と、継続的な関わりのお話を、支援を通して感じていることをお伺いした。「居場所」「役割」「なかま」「実家」のお話しを通して、地域で安心して暮らすために必要なことについて考えてみたい。(取材 高橋)

【今池平和寮】
住所 大阪市西成区天下茶屋北1-4-6
電話 06(6633)3161
<http://www.helenkeller.or.jp/maike>

施設から地域生活への流れ

みなさんがとても和やかに過ごされていて、寮のなかは落ち着いた雰囲気ですね。寮を出て地域で暮らす方も施設を利用しているということですが、その辺りから、お話しをお聞かせ下さい。

織田 入寮される方は、様々な障害や問題を抱えておられますが、多くの方は少しの支援があれば一人で生活することが可能です。

短期間でここを出られる方や、数年又は10数年施設での生活を送られていた方が、近くのアパートで部屋を借りて生活を始められます。

—— お一人で生活するために必要な少しの支援とはどのようなことでしょうか。

織田 退寮後も寮での食事提供や入浴・洗濯利用ができます。相談はいつでもお受けしていますし、月に1回巡回相談も行っています。

また必要な場合は薬や金銭の管理も行っています。精神障害のある方で、毎日きちんと飲まなければならぬ大切な薬があれば、お預かりして、食事提供のサービスと合わせて

施設の概要

入寮規定 生活保護の方の適用を受ける成人で大阪市及び各市町村福祉事務所の委託による。定員 60名(男性50名、女性10名)。

短期入所、緊急一時枠あり。
自立支援事業(平成12年より開始)

今池平和寮を退所し、アパート自立した後地域で、安定した生活を送るための援助を目的とした事業

サービス内容は月1回の巡回やよろず相談、金銭管理(希望者のみ)等の援助、寮での食事提供や日課の参加、外出行事の企画・実施など様々な支援を行い、安心して自立生活ができるよう支援が行われている。

支援状況について
織田 今池平和寮には身体や精神に障害のある方や依存症、認知症、また何らかの生活上の問題を抱えて支援が必要な方が入所されて

寮で食事と服薬をしていただけるようにしています。金銭については、ご本人とよく相談をして事務所でお預かりして、必要なときにお渡しする形をとることもあります。

70歳前後の高齢の方が、一人での生活を始めるというところで、家賃を振込むときに銀行ATMの操作が難しいといったこともできます。その場合は、職員が何回か付き添ってお手伝いをしながら、お一人でも行っていたるように支援をしています。

ご本人の生活に、私たちが関わりすぎないように、必要な部分だけを支えるようにして、できるだけご本人でしていただけるような支援を心がけています。

—— 寮を出てからも、同じ施設が利用でき、親しくなった職員さんにもお会いできることは安心につながりますね。

織田 出られた後の様子がわかり、私たちも安心しています。少しでも関わることによって、地域に住んでから状態が悪くなられたときに、いち早く変化を見つけて対応できます。

寮の施設やサービス、また寮以外の地域で利

います。

短期入所では野宿経験者や緊急性の高い方を受け入れています。入所経路は大阪市立更生相談所から30名、西成区19名、西成区以外6名、他市6名の計61名が平成18年1月現在で入所されています。

退所後の経路については、過去6年間で約140人の方が自立生活を始められました。寮近隣のアパートで生活をされていて退所後も、今池平和寮の保護施設通所事業で支援を希望された方は約90名おります。

自立生活をされている方の退所時の年齢ですが、70歳以上の方が約20%、60歳以下(障害等あり)の方が約40%です。入所期間は、70%の方は6ヶ月以内に退所しています。

職員は施設長1名、番頭師・栄養士各1名、職員14名と非常勤3名、事務員1名で入所者と地域の自立生活者の支援を行っています。

用できるサービスを受けながら、だんだんと地域で安心して暮らせるようになっていかれるのが現状です。

なごみ



寮から出て地域の生活を始めるときに不安を感じられることはないのでしょうか。
織田 3階に「なごみ」という部屋がありま

す。6畳の部屋を朝7時から夜7時まで開放し、アパートの方が自由に出入りできるようにしています。そこで寮の方はアパートの方と自然に交流ができて、地域の様子や色々なお話を聞くことができます。

職員からも退寮にあたっては説明を行い、質問にもお答えしているのですが、実際に経験された方のお話を聞くことで、ピアサポート(当事者同士のサポート)が自然にできてうまくいっています。

—— 部屋の壁には楽しそうな行事の写真がたくさん貼ってあって、いい雰囲気でした。

織田 アパートの方たちだけの行事があります。春はお花見、夏はビアガーデン、秋は日帰り旅行といった行事を楽しんでいます。

年に一度は旅行に行きます。毎月お金を積み立て、最初は北海道にいきました。飛行機に乗りたくないという希望が多かったので北海道になり、次の年は沖縄に行きました。

毎月の積み立ては、負担になると思うのですが、旅行に行くためだと思えば、金銭管理の苦手な方も貯金をされています。一人ではな

傾聴とネットワーク

織田 アパートの方に、寮のサービスを利用していただくためには、寮の中が落ち着いていることが大事ですので、雰囲気づくりにはとても気をつけています。

—— 落ち着いた雰囲気をつくるためには、何が大切でしょうか。

織田 傾聴ですね。何かあればまず職員が、お話を聴きます。話すことでご自身の心の整理もされるでしょうし、納得もされるでしょう。一番大切なところだと思います。

みなさん人生の先輩方ですので、若い職員が意見を言うまでもなく、傾聴することで多くの問題は片付いていくと思います。

また職員だけでは解決できない問題もありますので、その時は外部のネットワークを利用します。医療の問題であれば医療の専門家に相談したり、様々な専門家や専門機関に助けていただけるようにしています。

傾聴とネットワークを大きな柱として支援を行っていることが、寮の中が落ち着いている大きな要素だと考えています。

なかなか行けないようなところへ、職員が子どもや孫のように付き添って、みんなで楽しく旅行に行きます。

—— 生活にリズムがでてきますね。

織田 それが励みにもなっているようです

コーヒーマの提供

織田 なごみでは、月々金曜日の午前10時から約1時間半のあいだにコーヒーマとジュースの提供を行っています。必ず職員1名が入り、みなさんに手伝っていただきながら、飲み物を提供しています。毎日50人前後の人がこの部屋を訪れてコーヒーマを飲みながら色々なお話をしています。内訳はアパートの方約15名、入所者約30名、職員約5名です。

毎日続けた結果、平成17年度は年間1万人弱の方が利用していただきました。過去3年間で、毎年少しずつ増えていっています。

—— 部屋に入ると、みなさんとの距離が近くて、初めてなのに親しみを感ずきました。

織田 ここでは何年も前に寮を出た人と、最近寮に来た人が、顔を合わすことができます。

寮の一日

高市 寮の起床時間は6時半ですが、早起きの方が多いです。朝食からお昼までたっぷり時間があつたので、午前中の日課は少ないです。ですから、場所の都合もあるのですが、ミュージック・ケアは午前中に行っています。

9時15分から10時40分くらいまで、ワイワイ言いながら体を動かして、その後、「なごみ」でゆっくりとコーヒーマを飲んでいたら昼食の時間です。「ミュージック・ケアのある日は、一日が短く感じる」「ミュージック・ケアで体を動かした日は、よく眠れる」と言ってくださいます。午後は、月水金は介助浴の日です。日曜日は、麻雀クラブ、カラオケ教室、喫茶たんぼが、木曜日は茶道クラブがそれぞれ月2回あります。土曜日にはカラオケクラブ、工芸クラブ、書道クラブ、囲碁将棋クラブが毎週交代で月1回ずつあります。その他、月1回、ボーリング療育、カラオケボックス、リズム教室、歩行訓練、「音楽を楽しむ会」、ふれあい喫茶などがあります。

—— その流れの中で、寮の方とアパートの

職員ととっても同じです。寮には常にアパートの方が相談にいられています。何か困ったことがあっても、寮に来られたときに、どの職員であっても、すぐにお名前がわかって対応できるように、みなさんの顔とお名前を覚えて、お話をし、日頃から接点を持つようになっています。



方が一緒に過ごしていて、寮の生活というよりは、地域生活に近いような気がしています。

高市 アパートの方はもともと寮におられたのでお風呂を利用されたり、洗濯物を干して帰って、次の日に乾いた洗濯物を取りに来る方もいらっしゃいます。

—— まるで実家のようなですね。

織田 私たちが目指しているものは実家です。ね。そこにいったらホッとすると、落ち着く。困ったことがあれば相談に来て、いいことがあったら話に来て、という風に利用していただいたら、うれしいですね。

高市 なかには、アパートに移ったのに寮を利用していいのかと思われる方もおられます。でも、女閩を入ったらミュージック・ケアの音楽が聞こえていて、職員から「体操していきませんか」と声がかかる。また、「なごみ」に行ったらアパートに移られた方がたくさんおられる。このような状況を常に作ることで、どなたにも、今池平和寮が安心できる実家と感じていただけるように心がけています。

音楽活動

- ♪ミュージック・ケア（月・水・金）
- ♪音楽を楽しむ会（毎月1回）
- ♪寮内・寮外コンサート（毎月1回）
- その他、カラオケ教室、リズム教室
- ♪今池十二薬坊（寮内・外コンサート）



されています。昨年から職員の一部がMさんにギターを習うようになりました。とても熱心でとうとうコンサートデビューしました。



「コンサートの様子 写真 今池平和寮」
それから講師の方とMさんと職員の間重奏が始まりました。最初の頃はMさんも、観客の

織田 平成10年に近畿の救護施設の大会で、荒井敦子先生の音楽療法の講演をお聴きしたのがきっかけでスタートしました。最初は音楽療法を行い、徐々に寮内コンサートや寮外での演奏活動へと広がってきました。

♪ミュージック・ケア

加賀谷集団音楽療法（音楽を利用して、対象者とかかわることを目的として作られた技法）を元に「だれでも、どこでも、いつでも」利用できることをモットーとする音楽活動
高市 ミュージック・ケアは、日課として週に三回午前中に行っています。

高齢の方、若い方、内部疾患の方、身体的知的障害のある方、認知症の方が参加され、また入れ替わりの多い施設ですので、初めての方、ずっと続けている方も参加されます。みなさんが、それぞれに参加した価値を見出して、楽しんでいただけるようなプログラムを考えています。

「風の通り道」の曲に合わせて首の運動からスタートして、だんだんとお手玉や鳴子、みなさんも、始めたばかりの職員のことを心配そうに見ていたのですが、だんだんと上手になって、毎月演奏を楽しみにしています。

ハーモニカ演奏もあります。得意な方がいらっしゃって、ペランダで毎日練習をされています。ときどき、同じ階の方が、ハーモニカを分解して掃除したり、音の調節をしてくださっていて、色んな方が協力してくださっています。利用者さんがギターやハーモニカの演奏を発表されるようになって、他の方も大きな声で歌われるようになり、全体の雰囲気がいっしょになりました。

♪寮内コンサート

織田 外出が困難な方にもいい音楽を味わっていたために始めました。クラシックや民謡、ジャズなど様々なジャンルで活躍している方に来て演奏をしていただいています。高市 回数を重ねるごとに、音楽の良さだけでなく、一所懸命演奏される姿にも感動して喜んでくださっています。みなさん毎月楽しみにされていますので、これからもいい演奏を楽しんでいただきたいと思います。

太鼓や鈴などを使いながら身体を動かします。体操のあとは、ギター伴奏でいろいろな曲を歌います。最後の曲は必ず「ふるさと」です。「ふるさと」は、みなさんとてもお好きで、他の曲は歌わない方も、この曲だけは歌ってくださいます。特別な思いがあるのですね。

ミュージック・ケアは、寮の方向士が知り合う場にもなっています。普段は、食堂やお風呂場ですれ違ったり、月に一度のコンサートで会う程度ですので、このケアの時間に、みなさんお顔と名前を覚えて、だきあって親しくなれたり、障害のある方と一緒に身体を動かしたり歌ったりすることによって、理解を深める機会にもなっています。

♪音楽を楽しむ会

織田 講師の方に来ていただいて月に1回、行っています。お誕生日の方の紹介や、利用者さんによる演奏もあります。

筋ジストロフィーのMさんは、音楽療法を始めて、一時期辞めていたギターをもっと一度弾かれるようになり、音楽を楽しむ会で演奏

居場所 ですな

音楽療法や日々の活動を通して
最初は見えなかったものが
はつきりと見えてきました

音楽活動のときは

いつの間にかみなさんが準備や
片付けをしてくださっていました
なかにはコンサートの準備を終えて
部屋に帰られる方もいます
「じつぞ」「こいつても
「僕がいいです」「こいつて帰られる
演奏が終わると又来てくださって
片づけをしてくださる

職員が全て用意してしまうのではなく
みなさんに手伝っていただきながら
「自分の役割や居場所を
見つけていただきながら・・・
それでいいと思います

（織田）

♪今池十二楽坊

高市 3年前に音楽療法で使っている楽器（ハンドベルやトーンチャイム）を使って、何かしようということが始まりました。8名で結成し、現在は14名。そのうち5人の方はアパートに移りましたが、そのまま続けてくださっています。

最初はお誕生日会にハンドベルで「ハッピーバースデー」を演奏しました。それから徐々に曲が増え、トーンチャイムの伴奏も加わりました。最近では、楽器のお世話をしてくださっているお店の方や、奈良で知り合った方々のご縁で、色々な方が十二楽坊と一緒に演奏してくださるようになりバイオリンやチェロ、サクソとのアンサンブル演奏もしています。綺麗な音色に、練習のときからみなさん感激しています。

最初の頃は練習の方法もわからなくて試行錯誤しました。3つのチームに分けたり、楽譜をカタカナで書いたり、番号札を上げたりもしました。今はスムーズに練習ができるようになり、最近流行っている歌も何回か練習

同じ気持ちなんです。十二楽坊が舞台上で演奏する時は、客席で観ている寮の方が一緒に舞台上上がるような気持ちで応援してくださっています。大会で優勝したときも客席で立ち上がり、すごく喜んでくれました。昔められたり、慰めてもらったり、当たり前のことなのですが、ある一定の年齢をすぎると、昔めたり慰めたりすることはあっても、されることはめったにありません。でも舞台で大きな拍手をもらったり、慰問先で喜んでもらったりすると、なんだか嬉しくって子どものころに戻ったような気持ちになります。人を感動させ、喜んでもらう嬉しさと同時に、自分たちが昔められたようなくすぐりたい気持ちを感じています。

私たちが今池平和寮の十二楽坊として、より多くの人に存在を認めてもらうことで、寮の皆さんも同じような気持ちを持た、さん味わって頂けたらいいなと思っています。こんな気持ちをもみなで分け合える寮でありたいし、分け合った分、皆さんの人生が豊かになれば最高です。

して覚えてくださいます。忘れないように、できるだけ多く練習するようにしています。

他の方にとっては、練習の音が大きいのではないかと気にしていましたが、温かく見守っ



てくださっています。ときどき練習を見て「だんだん上手くなってきた」と言ってくださって、とても感謝しています。（写真 今池平和寮）

ともに喜び合えるなかま 昨年に音楽の森の「昼下がりのコンサート」で演奏しました。音楽の森に行く時、荒井先生が「大阪から来てくださった今池平和寮のみなさんです！」と紹介してくださるのが楽しみで、緊張してその瞬間を待っています。寮に帰ってからその話が出ると、行かなかった人も嬉しそうに頷いていました。

—— 音楽活動によって寮の中にも、寮の外にもいろんな「つながり」ができたのです。織田 音楽活動を通じて奈良で出会った荒井敦子先生や喫茶シャロームさんとのつながりもとても大事にしています。できるだけ外部の方にも関わっていただいて、外の風を取り入れることは、寮のみなさんや職員にとっていいことだと思っています。

音楽活動を通じて見えてきたもの 織田 これまで続けてきて、私たちが思っていた以上の結果がありました。それは音楽活動以外の見えないうちで協力してくれる職員がいることです。これは当たり前のことかも知れませんが、音楽活動を行っている時間帯に入所者の対応や入浴後の洗濯など施設全体が一つのチームで動いていることです。

みなさんの理解や協力、そして応援がなかったら続けられなかったでしょう。見えないうちでもしっかりと支えてくださっていることがより大切だと感じます。

それが今、結果として見えるようになってきて、やって良かったと思っています。



♪ トーンチャイムやハンドベルは一人が休むとみんなに影響します。その大変さを知っているから休まないように練習に参加されています。でも 入院されたときは退院するまで席を空けて待っています。ときどき嫌になって休む人がいると「しばらくしたらまた来るよ」といって、その人が来るのを待っています。みんな仲間で、理解があるんです。十二楽坊のみなさんは「ずっと続けたい」といつてくださっています。私はただ「みんなありがとう」という感謝の気持ちしかないですね（高市）



（写真 今池平和寮）

♪ コンテストで優勝したとき

「いい仲間に出会えてよかった」

という感想をたくさんいただきました

ともに「いい仲間」と感じて

言葉に出してくださったことが嬉しく

続けてきて良かったと思いました（高市）

♪

大きくなつながら

—— 大切な「なかま」がいて、寮全体が、大きなところでしつかりとつながっていることで、安心して自分の居場所や役割を見つけて地域で暮らしていただきたいですね。

織田 地域生活を始められても、この地域で生まれ育っていないため、なかなか地域のコミュニティに入っていけない難しさがあり、寮を利用していただいています。

その一方で地域にある社会資源を利用して、積極的にコミュニティに入って居場所を広げていかれる方もおられます。

寮だけが支えるのではなく、色々な社会資源も併せて支えられるように心がけながら、個別の支援を続けて行きたいと考えています。

偲ぶ会

織田 昨年8月に「偲ぶ会」をしました。平成2年の開所以来、亡くなられた方々を偲んでお盆の時期に法要を行いました。

そのときに参列された方がとても喜んでくださいました。ご自分たちも亡くなった後に

ではなく、「野宿に至る経緯」ですね。

織田 路上で生活をしていた方がアパートで一人暮らしを始めても、すべての問題が解決したことにはなりません。支援をしていると、野宿にいたるまでに、経済的な貧困もあるでしょうが、一番大きかったのは、人的な貧困だと感じています。人とのつながりがなくて、相談相手もなく、支援がうけられずに野宿に至ってしまった。その方にとっては、畳の上での生活が始まって、人的な貧困については、何も解決していません。

—— 静かな部屋で一人で過ごす生活になると、余計に孤独感や寂しさを感じられるようになります。

織田 野宿という生活は過酷ですが、同じ様な生活を送る仲間や話し相手がいったり、助け合いもあったでしょう。人のつながりの点からみれば、その状態のほうが良かったと感じられるかもしれません。雨霧はしのげるようになったけれども、その時点で人との関わりを失ってしまったら、また前の状態に戻る可能性が大きくなります。

みんなが覚えてくれていると思うと、とても嬉しかったそうです。

高市 普段、寮の行事に参加しない方が参列されて、特別な意味があると思いました。

織田 葬儀、法要は生きているものにとっての心の整理だと思います。家族のいない方が、亡くなって一年、二年経ったときに、誰が自分のことを思い出してくれるのかと考えると、一人ひとり思い出出すことはあっても、法要のような形としては何もありませんでした。

実際に法要をして参列していただくことによって、自分が死んでも忘れずに思い出してくれる人がいるということを実感して、安心をされたのだらうと思います。そこが先ほどお話しした「実家」というところにも、繋がれば良いと思っています。

救護施設の役割

—— 釜ヶ崎という、特徴ある地域でみなさんが「居場所」や「役割」そして「いい仲間」を見つけて、この地域で暮らされていることはとても意味のあることだと思います。

—— これから地域福祉の分野では、独居の高齢者をどう支えていくかが、大きな課題といわれています。今池平和寮さんの活動が一つのモデルとなると思います。

織田 実際に野宿から地域生活を始めるまでには、何人もの人がかかわっています。そのかわりを何らかの形で継続していくことが必要だと思っています。

独居の高齢者や障害者に今池平和寮で行っている服薬管理や食事提供などの支援を継続することによって、服薬と食事と睡眠が安定すれば大きな崩れはないと思います。そうした支援が制度として整備されれば、もっと多くの人が地域生活を送れるようになるかもしれませんね。

そういうことを思いながら、私たちは今池平和寮で生活している方と、寮を出て必死で一人暮らしをしている方が、一日も長く安定した生活が送れるように、日々支援を行っています。

織田 大阪市西成区にある釜ヶ崎地域は狭い面積に約2万人の人が住める簡易宿舎とアパートが密集しているところです。

支援をするときに、その方の過去のことや生活歴を知っておくことも必要ですが、それよりもその人がこれから生活していく上で、必要なことは何かを考えて、支援することの方が大切だと思います。

様々な経緯や事情があって今池平和寮に来られた方の多くが施設を出て一人で、或いは少しの支援を受けながらこの地域で生活をされています。その中には今まで、野宿を経験された方、人間関係がうまくいかずに幾つかの場所を転々とされた方がいますが、実際に接してお話しをすると、特別なことはなく、みんな同じだと感じています。

私たちが突然、野宿を余儀なくされる状況に置かれるかも知れません。そのことを多くの方に知っていたために、私たちの活動をもっと伝えていかなくてはなりませんね。

—— 「野宿を余儀なくされた方」という言葉に込められていますが、問題なのは「野宿」



音楽をしているときは
いろいろなことを忘れ
音楽によって

みんなで楽しめる時間が
少しでも長くあればいいかな
と思っています(高市)

略 年 譜

	社会事業及び政策	そ の 他	
明治 18年(1885)		長町にコレラが猛威	
31年(1898)	宿屋営業規制(大阪市・堺市内規制)		
36年(1903)		第5回内国勲業博覧会	
42年(1909)	愛染橋保育所創設		
45年(1912)	大阪自彊館創設		
大正 9年(1920)	四恩学園創設		
昭和 21年(1946)	大阪駅市民案内所新設		
	生活保護法施行		
24年(1949)	梅田厚生館創設		
25年(1950)	新生活保護法公布		
36年(1961)		第1次西成暴動	釜ヶ崎に監視カメラ設置
38年(1963)		第2次西成暴動	
41年(1966)		第3次西成暴動	
42年(1967)	白雲寮開設(自彊館)		
43年(1968)		若い活動家の参加	
45年(1970)	あいりん労働センター開設	日本万国博開幕	
		第9次西成暴動	
46年(1971)	大阪市立更生相談所開設	あいりん地区越年対策	
48年(1973)	今宮寮開設(自彊館)	第21次西成暴動	
50年(1975)	愛隣寮開設(自彊館)		
59年(1984)	甲子寮開設(自彊館)		
平成 2年(1990)	三徳寮開設(自彊館)	第22次西成暴動	ケアセンター開設(三徳寮)
	今池平和寮開設(ハレソケラー)		
6年(1994)		高齢者特別清掃事業開始	
9年(1997)		佐藤裁判	
10年(1998)	大阪市野宿者調査	大テント設置	
11年(1999)	大阪市巡回相談開始	サポーターハウス開始	
12年(2000)	自立支援センター3ヶ所開所	あいりん臨時緊急避難所	長居シェルター開所
13年(2001)			西成シェルター開所
14年(2002)		大阪城一時避難所開所	
16年(2004)		あいりん臨時夜間緊急避難所	
17年(2005)		自立支援センター舞洲	

保護施設の役割
施設における生活～地域生活支援の現状

日本へレンケラー財団
今池平和寮 織田隆之

1. 今池平和寮利用者の状況

定員60名(男性:50名・女性10名)

現員68名(男性:58名・女性9名) 中学1年生:1名

2. 入所経路

市立更生相談所:36名

西成区:16名

市内:10名

大阪府下:4名

奈良市:1名

児相:1名(中学1年生)

3. 利用者状況

平均年齢 61.9歳

最高齢 87歳

最年少 35歳

障害別 統合失調症

21名

アルコール依存症 10名

身体障害者

11名

知的障害者 6名

薬物依存症

3名

障害等なし 23名

※重複障害あり

4. 支援体制

◇日常生活の安定

①日課

②傾聴

◇システム作り

①規則

②処遇方針

◇ネットワーク

①開拓

②維持

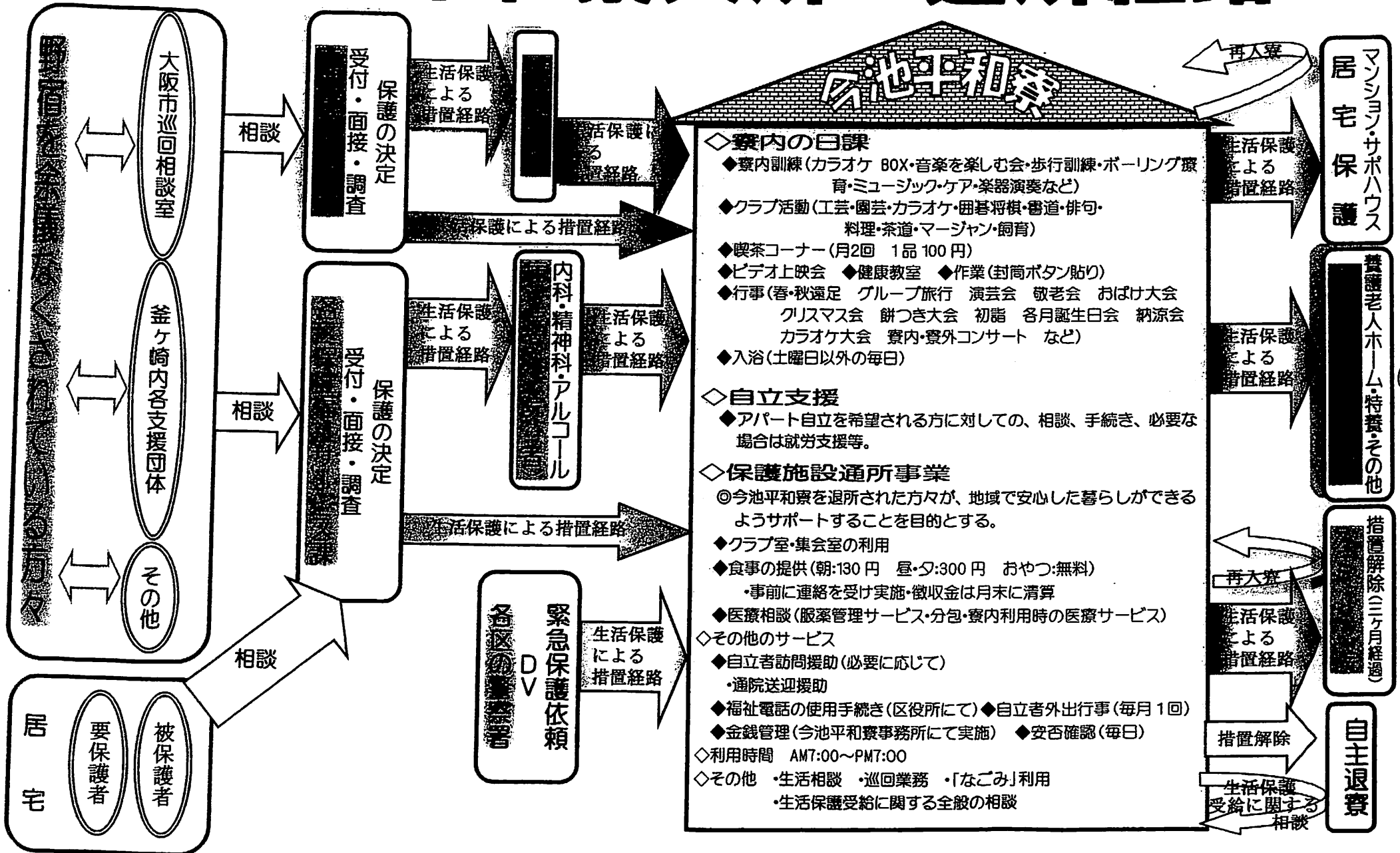
③管理

5. 地域生活における支援体制

◇通所事業

◇今池平和寮アフターケア事業

今池平和寮入所・退所経路



今池平和寮年次表

昭19.04.01現在

年次	事業概要	政策&その他	昭19.04.01現在						
			退所者数	自立	入院	自主退所	転入	死亡	その他
1990(H2)	◇開所(1月)		15	1	11	2	1	0	0
1991(H3)			8	0	6	0	2	0	0
1992(H4)			9	0	3	2	1	2	1
1993(H5)			22	0	10	3	4	3	2
1994(H6)		◇高齢者特別清掃事業(11月)	8	0	2	1	1	4	0
1995(H7)			7	0	4	1	1	0	1
1996(H8)			13	0	1	3	5	2	2
1997(H9)		※佐藤訴訟(12月)	11	0	6	2	2	1	0
1998(H10)	◆精神障害者社会復帰受け入れ事業(女性)	◇大テント、ケアセンター(三徳寮) ◇大阪市野宿者調査	10	2	6	1	0	0	1
1999(H11)		◎サポーターハウス開始(6月) ◇大阪市巡回相談業務開始 ◇高齢者特別清掃事業拡大	21	11	3	1	1	2	3
2000(H12)		◇長居シェルター(12月) ◇あいりん臨時夜間緊急避難所(三角公園横) ◇自立支援センター3ヶ所開所	15	9	3	0	0	2	1
2001(H13)		◇西成シェルター開始(12月)	31	11	7	5	1	3	4
2002(H14)	◆女性緊急一時事業開始(3床) ◇単泊事業開始(3床) ◇教護施設退所者等自立生活支援事業開始(訪問) ◇通所事業開始(訪問指導開始)	◇大阪城一時避難所開始	26	10	6	4	1	5	0
2003(H15)	◆男性緊急一時事業開始(3床) ◆自立援助事業開始(大阪城一時避難所より入所)		63	47	8	5	1	2	0
2004(H16)	◇通所事業開始(通所訓練開始&訪問指導継続)	◇あいりん臨時夜間緊急避難所(三徳寮横)	41	27	8	3	0	3	0
2005(H17)		◇自立支援センター舞洲	42	24	4	3	5	3	3
2006(H18)	◇居宅生活訓練開始		31	20	4	5	1	1	0
その他	◇政策事業 ◆今池平和寮支援事業 ◎民間事業								

◆保護廃止理由の推移

		1991	1995	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	平均
西成	死亡	37.7	44.4	48.9	49.2	50.3	58.9	55.1	—	—	52.5
	失踪	5.7	10.4	19.3	19.1	19.7	21.7	20.8	—	—	
今池	死亡	0	0	2.7	7.6	5.8	1.6	2.9	3.9	3.2	20.1
	失踪	0	1.5	0	5.5	4.7	4.9	2.9	5.9	6.5	
自立	死亡	—	—	13.3	18.1	14.2	10.3	0	0	0	11.2
	失踪	—	—	0	0	14.2	6.9	0	5.3	0	

資料)西成区保健福祉センター「西成区の生活保護の動向」(2005.8.1)平均値は2000～2004年度の数値。

◆支援対象者の高齢者・障害者別の構成割合

		高齢者	総合失職	身体障害者	知的障害者	アルコール依存症	薬物依存症	内部障害者	妊婦	就労・その他	合計
H14(2002)	男	2				1			—		3
	女	2			1						
H15(2003)	男	7	1	1		3		5	—	1(半福祉)	18
	女	5	3	2						1(記憶喪失)	
H16(2004)	男	9		2		3		1	1	1(半福祉)	16
	女	4					1			1(半福祉)	
H17(2005)	男	7	3	1			4(ア)		—	1	16
	女		2								
H18(2006)	男	7	1	2		1		1	—	1	13
	女	3	1				1		1(知的)		
合計		46	11	8	1	8	6	7	3	7	97

注) 高齢者の扱いは男性65歳・女性60歳。(ア)アルコール依存症

◆アパート自立者の在籍年数の構成割合

		～3ヶ月	4～6ヶ月	7～11ヶ月	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上	合計
H14(2002)	男	2	1				2		5
	女	2	1	2					
H15(2003)	男	22	4	1	1	2	1	1	32
	女	7	4	1	2			1	
H16(2004)	男	8	3	3	5			2	21
	女		5	1					
H17(2005)	男	5	5	5	2	2			19
	女	3	1	1					
H18(2006)	男	3	2		4	2		2	13
	女	2	1	1	3				
合計		54	27	15	17	6	3	6	128

◆退所時(アパート自立)の年齢の構成割合

		80歳以上	79～75歳	74～70歳	69～65歳	64～60歳	59～55歳	54～50歳	49～45歳	44～40歳	30歳代	20歳代
H14(2002)	男	1		1	1		1					4
	女					3	1	1		1		
H15(2003)	男		3	5	5	7	5	4	1		2	32
	女			2	1	6	3		1		1	
H16(2004)	男		2	3	5	4	2	2	1	1	1	21
	女					4	1			1		
H17(2005)	男	1	1	4	5		3	3	1	1	1	20
	女					1		1				
H18(2006)	男			4	2	4	2	1				13
	女			2	3				1	1		
合計		2	6	21	22	29	18	11	6	4	6	3

◆巡回件数(通所・訪問対象者については毎月実施。職員は2人1組みで実施)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
巡回件数	58	62	60	65	8	63	60	65	61	67	60	68	697
職員総数	27	28	27	31	6	28	30	31	30	35	30	35	338

◆サロ：利用(飲み物の提供：無料)(自立者・寮生：月～金曜日)(自立者：土曜日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立者	145	140	157	160	148	150	139	154	128	135	145	142	1,743
寮生	489	480	523	495	433	530	490	450	510	490	466	511	5,867
合計	634	620	680	655	581	680	629	604	638	625	611	653	7,610

◆食事の提供(朝：150円・昼：400円・夕：400円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
朝	159	153	147	113	111	142	169	186	143	105	73	114	1,615
昼	133	150	178	106	117	129	137	125	129	116	152	104	1,576
夕	87	101	105	62	44	59	99	71	67	52	36	57	840
合計	379	404	430	281	272	330	405	382	339	273	261	275	4,031

◆お弁当会(第2火曜日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加数	11	8	7	中止	中止	7	8	11	7	中止	6	7	72

金銭管理

- ◆生活費手渡し
- ◆通帳管理
- ◆家賃振り込み援助
- ◆銀行付き添い(出金時)

他の施設利用については下記のものがある

- ◆入浴利用(介助者・一般)
- ◆洗濯利用(介助者・一般)
- ◆服薬管理(統合失調症・アルコール依存症を対象)
- ◆通院送迎(定期通院・緊急時)
- ◆受診立ち会い(定期通院・緊急時)
- ◆介護保険の申請及び変更及び事業所の調整
- ◆各クラブ活動(今池平和寮日課)
- ◆各行事参加(今池平和寮日課・通所事業及びアフターケア事業対象者の行事)

自立者行事参加一覧表
(平成13年度)

(今池平和寮)

月 日	行事内容	参加人数		付添職員		備 考
		自立者	寮生	自立	指導	
4月6日	観桜会 ◆	20	—	3	2	泉佐野市(大崎山温泉)
5月3日	将棋大会	11	25	1	1	入所者行事
8月10日	納涼会 ◆	21	60	2	15	今池平和寮屋上
13日	懇談会	20	30	2	8	入所者・自立者合同
17日	プロ野球観戦 ◆	8	—	2	—	大阪ドーム
29日	おぼけ大会	15	47	3	8	今池こども寮合同行事
9月14日	敬老会 ◆	11	60	2	10	入所者行事
10月18~20日	旅行(北陸方面)◆	15	—	3	2	積立:5,000円
11月6日	日帰り旅行 ◆	16	3	3	3	泉佐野市(大崎山温泉)
11月19~22日	沖縄旅行 ◆	2	—	1	—	沖縄世界遺産めぐり
11月25日	子ども祭り	12	55	2	10	今池こども寮合同
12月17日	もちつき	10	60	3	10	地域合同(町会等)
17日	忘年会 ◆	25	—	3	3	フランス料理店
1月10日	新年食事会 ◆	11	—	3	—	寮内で実施
3月25日	春咲きコンサート	7	30	3	5	なら100年会館
その他	ビアパーティー◆ 雨天の為、中止(H13より実施) ビアガーデン ◆アルコール提供行事 ◇お弁当会(自立者) ◇カレーの日(自立者) ◇誕生会(自立者) ◇各クラブ活動(自立者・入所者) ◇寮内・外コンサート(自立者・入所者) ◇今池12楽坊《音楽活動:バル・トーンチャイム(自立者・入所者)》					

今池平和寮病院関係及び各種支援団体

総合病院

- ◆相原第2病院
- ◆愛染橋病院
- ◆浦上病院
- ◆四天王寺病院
- ◆NTT病院
- ◆大阪市立大学病院
- ◆浦上病院
- ◆加納病院

精神科関連病院

- ◆金岡中央病院
- ◆社会医療センター
- ◆丹比荘病院
- ◆たぞえ診療所
- ◆太平学園診療所

アルコール関連病院

- ◆新生会病院
- ◆浜寺病院
- ◆小杉クリニック

薬物関係

- ◆光愛病院

医院

- ◆くろかわ診療所〈内科・心療内科〉
- ◆きのだ医院〈内科・歯科〉
- ◆やすらぎクリニック

その他

歯科・眼科・皮膚科

各種支援団体及び支援者

- ◆児童相談所
- ◆弁護士
- ◆大阪市野宿者巡回相談室
- ◆野宿関連の宿泊所及びアパート
- ◆薬物関係(ダルク・フリーダム)
- ◆アルコール関係(日本アルコール関連問題CW協会・関西支部)
- ◆釜ヶ崎内の支援団体(子ども関係・野宿関係・就労支援関係)
- ◆研究者(大学教授・学生・その他)
- ◆介護サービス事業所
- ◆婦人保護施設
- ◆保護観察所・保護司
- ◆自立支援センター
- ◆野宿関係の支援団体(全国)
- ◆ギャンブル依存症(ワンダーポート)

施設見学及び職場研修受け入れ状況

受け入れ日	各 種 団 体	地 域	人 数
平成18年 4月25日	社会福祉法人 阪神福祉事業団 ななくさ厚生院 常務理事他	兵庫県	6名
6月10日	阪神医療生協	神戸市	30名
7月15日	梅花女子大 助教授・学生	大阪府	10名
7月17日	東北大 助教授	仙台市	1名
8月4日	日本福祉大 助教授及び留学生(東京大) 大阪市立大 教授	愛知県 大阪市	3名
8月28日 ~29日	愛媛大学学生 (ボランティア)	松山市	2名
8月29日	CAP理事	東京都	1名
9月24日	立教大学 助教授・学生	東京都	14名
10月11日	うるま市ケースワーカー	沖縄県	1名
10月23日	茨木高校 教諭	茨木市	1名
12月2日	岩手大学 教授	岩手県	1名
12月2日 ~3日	愛知県立大 学生	愛知県	2名
1月16日	NPO北九州支援機構 及びバプテスト連盟関係者	北九州市	30名
2月15日 ~16日	NPO SSS (職場研修)	東京都	3名
2月19日 ~20日	NPO SSS (職場研修)	東京都	4名
2月27日	梅花女子大学 助教授・学生	大阪府	10名
3月2日	季刊らんじょう (取材) 記者	奈良市	1名